

CITY

大阪市立大学広報誌



UNIVERSITY

Vol.22
October 2016

CONTENTS

●P1 特集1

全日本大学選手権大会(インカレ)

ボート部 男子エイト第7位!!

●P3 特集2 イベント紹介

あそびとまなびのキャンパス～夏休み子ども防災キャンプ～
イノベーション・ジャパン 2016

OCU TOPICS

●P5 Research / 徳永 文穂 教授(医学研究科)
渡邊 恭良 所長(健康科学イノベーションセンター)

●P6 Education / フランス ル・アブル大学の交換留学生が来訪 ほか

●P7 Researchers / 西垣 順子 准教授(大学教育研究センター)
佐伯 壮一 准教授(工学研究科)・福島 若葉 教授(医学研究科)

●P8 @ Campus

人工光合成研究拠点 キックオフ・セミナーを開催
医学研究科4センター発足記念式を開催
Highly Cited Researchers 2015に選出
ほか

●P10 大学サポーターだより

OCU INFORMATION



祝

全日本大学選手権大会 (インカレ) ボート部 男子エイト 第7位!!

平成28年9月22日(木)～25日(日)に
埼玉県 戸田ボートコースにて開催された
第43回全日本大学選手権大会 男子エイト種目において
本学ボート部が第7位に入賞しました。

西日本の大学で唯一準決勝に進出し、「東高西低」と言われる
大学ボート競技において快挙を成し遂げました。



男子エイトのメンバー シーズン最終レースを終えて。



全日本大学選手権大会順位決定戦。手前レーンから早稲田大、一橋大、日体大、本学。
ラスト200mで日体大をかわし、第7位に入賞。

主将よりメッセージ ～インカレを終えて～



男子主将
まつい りょうすけ
松井 亮介さん
(商学部4年生)

この度、一番の花形種目である男子エイトで
このような結果が出せたことは率直に嬉しく思
います。

ここ数年、関西選手権での優勝など、成果はあ
がりつつあったのですが、全日本級の大会になる
と大阪市立大学は日の目を見ない存在でした。

私自身、2年生の時からインカレのエイトでの
勝利を目指してきましたが、過去2年も予選敗
退。全国大会の大きな壁を感じました。しかし、私
たちの代の最後のレースで同じ思いはしたくな
いという気持ちで、練習の量と質の最大化を図り、例年以上に良い練習
を続けてきた結果、今大会の成績につながったのだと思います。

また、いつも応援・支援してくださっているボート部OB・OGの方々や大
学関係者の皆さんがいたからこそ、私たちはここまで活動してることが
できました。本当に感謝しています、ありがとうございました。



女子主将
ぼば ちひろ
馬場 千寿さん
(生活科学部4年生)

今年度も、ボート部への温かいご支援、ご声援
ありがとうございました。

今年度の女子は、花形種目の舵手つきクオドル
ブルでインカレ最終日進出を目標としていま
しが、目標には及ばず準決勝敗退でシーズ
ンを終えることとなりました。

私自身、最後のインカレでこのような結果とな
り悔しさが残るばかりです。しかし、数年前まで両
手で数えられるほどだった女子部員の数が徐々
に増え、関西の主要大会の花形種目で入賞でき
るまでになりました。皆さんのたくさんの応援のおかげで今のボート部女
子の成長があると実感しています。

思い返せば、まだまだ改善・工夫の余地があると感じる1年間だったので、
次のシーズンではさらに飛躍・成長できると後輩達に期待しています。2017
年シーズンも、大阪市立大学ボート部をどうぞよろしくお願い致します。



ボート部の1日

マネージャー



起床
練習開始までに選手が安全に練習できるよう環境を整える(並走の準備、ゴムボート用意など)

■並走組
自転車で並走しながら、艇が衝突しないよう注意喚起やタイム計測、練習動画の撮影

■食事づくり組 朝食準備

撮影した動画をクルーごとに整理



AM

4:30

6:00

8:00~

大学での講義

選手



練習開始

クルーに分かれて練習乗艇、エルゴ、ランニング、陸トレ、ウエイトトレーニングなど、さまざまなトレーニングを実施

朝食をとりながらマネージャーの撮影した動画を確認



PM

17:30

18:00

20:00~

22:00

集合
夕食準備と並走組に分かれる

並走と夕食準備

片付け・翌朝の朝食の仕込み



練習開始

夕食
帰宅・就寝



マネージャーにインタビュー!

しばつく もとみ
左/芝罘 元美さん(担当:渉外・安全)
(理学部3年生)

わきさか まゆみ
右/脇坂 麻友美さん(担当:栄養)
(生活科学部2年生)



Q ボート部のマネージャー業務について教えてください

渉外、会計、安全(練習環境の整備)、栄養(食事メニューの考案)など、さまざまな担当があります。一人一人がやりがいを持って取り組めるよう、どの業務を担当するかは自分たちで決めるようにしています。

Q マネージャーのやりがいは?

私たちマネージャーの思いは一つ! 何と言っても「選手に勝ってもらおうこと!」です。選手の喜んでいる顔や「ありがとう」の一言が私たちのやる気につながっているんです。

近年の戦績

2014年 10月 第55回全日本新人選手権大会
■男子舵手つきフォア **第3位**

2015年 6月 関西選手権競漕大会
■男子エイト **優勝**

9月 全日本選手権大会
■男子舵手つきフォア **準優勝(学生1位)**

2016年 5月 第69回朝日レガッタ
■男子エイト **第4位(学生1位)**
■女子舵手つきクオドルプル **第3位**

6月 第1回 西日本選手権競漕大会
■男子エイト **優勝**
■女子シングルスカル **優勝**

8月 関西選手権競漕大会
■男子エイト **優勝**

9月 第43回全日本大学選手権大会
■男子エイト **第7位**

あそびとまなびのキャンパス

～夏休み子ども防災キャンプ～

1日目

1 受付～開会



受付の様子



京極副理事長による開会挨拶

3 ICT演習

ICT演習では、Webの地理情報システムを利用して自分の住んでいる町を見たり、GPSの原理を学び、その機能を使って文字探しゲームをしました。演習を通じ、子どもたちは

災害時においても大切なチームワークを学べたのではないのでしょうか。みんなで楽しみながら、協力して課題に取り組む姿が印象的でした。



国際交流室
安岡 若菜



学務企画課
西前 香織

5 夕食



災害時を想定した夕食体験では、新聞紙でお皿を工作し、そのお皿でカレーや非常食をいただきました。子どもたちは一生懸命工作して、たくさん食べてくれました。災害が起こったとき、この体験で得た知恵を生かしてもらえたら幸いです。



研究支援課
矢野 まひる



学務企画課
川上 真裕子

2日目

前日の防災講義で避難時の体力の重要性などを学び、それを受けて、大学ならではの機器を使った体力測定を行いました。最終プログラムにもかかわらずみんな元気に参加してくれました。体力の重要性を少しでも理解してもらえていれば嬉しいです。

研究支援課/安藤 美智子

7 体力測定



8 振り返り



今回の防災キャンプは「協力」や「みんな」というキーワードで、避難所での宿泊と、いざという時の体験を通じて子どもたちに防災について学んでもらう1泊2日の取り組みでした。子どもたちには楽しく防災を学んでもらい、同時に大学職員も多くのことを学ばせていただきました。参加してくれた子どもたち、ご協力いただいた多くの方々へ感謝しております。ありがとうございました。



あそびとまなびのキャンパス実行委員会
実行委員長/松尾 繁廣(右)
企画調整マネージャー/北岡 美穂(左)

平成28年8月20日(土)・21日(日)の1泊2日、杉本キャンパスにおいて「あそびとまなびのキャンパス～夏休み防災こどもキャンプ」を開催しました。

大阪市内、堺市内の15の小学校から31名(小学4年生～6年生)が参加し、若手職員を中心とする実行委員によって企画された「あそびとまなび」のプログラムを体験。

当日の様子を運営側の視点でご紹介します。

2 災害時避難所体験・段ボールベッド製作



この企画では災害時に身近にあるものを活用する方法を学んでもらうことを目的に、ダンボールでベッドを製作してもらいました。緊張していた子どもたちも徐々に打ち解けて、楽しんでくれたことが何より嬉しかったです。

学務企画課
高島 陸



4 防災講義・マンホールトイレ体験

防災講義では、これから大阪で起こるかもしれない巨大地震について勉強しました。地震に備えて、「今のみんなにどんなことができるかな?」を考えました。また、災害時はトイレ問題が深刻になります。そこで、今注目されている「マンホールトイレ」を実際に体験。初めて見るマンホールトイレに子どもたちは興味津々でした。

学務企画課/川辻 理沙



6 マジックショー・天体観測



これらのレクリエーションは、本学の特徴である豊富な施設や人材を生かし、小学生に楽しみながら多くの体験をしてもらいたいという思いで企画しました。子どもたちの笑顔や驚いた顔など、さまざまな表情を見ることが出来て良かったと思います。また、教職員と学生が垣根を越えて協力できる良い機会になりました。

入試室/柳本 直樹



本学より
5テーマ
出展!

イノベーション・ジャパン 2016

平成28年8月25日(木)・26日(金)、東京ビッグサイトにおいて、国立研究開発法人 科学技術振興機構 (JST)と国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 (NEDO)の主催による国内最大規模の産学マッチングイベント「イノベーション・ジャパン2016」が開催されました。



第13回目となる今回のイベントには、本学から5件の研究テーマを応募し、すべてが採択されました。大学見本市の名の通り大学関係者が多数出展しており(全参加者は昨年同様2万人程度)、ブースには国内はもとより韓国や台湾など外国からの来場者も多く、非常に活気がありました。各テーマとも名刺交換が活発に行われましたので、共同研究等につながることを期待しています。

新産業創生研究センター所長 堀邊 英夫



高効率バイオ燃料電池及び レアメタル高吸着バイオ材料の開発

工学研究科 東 雅之 教授

パン酵母を改変し、バイオマス発電やレアメタルを吸着させる仕組みを構築。

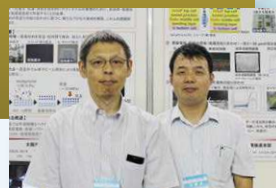


バイオ業界のセミナーとは違い、電気・機械・石油会社から防衛省まで、普段接しない方々の異なる視点に触れとても新鮮でした。実用レベルにつなぐことの大切さを再認識し、また、思いがけないところに成果を活用する道が見つかり、心が弾みました。酵母がつかいでくれた出会いから、企業との連携へと発展させたいですね。

室温異種材料接合による 革新的グリーンデバイスの開発

工学研究科 重川 直輝 教授

従来高温で接合していた半導体の異種材料を室温で接合することに成功、太陽電池などに応用可能。



異種材料の貼り合わせによる新しい素子技術の可能性をお示ししたのですが、関連分野(材料、電機など)の多くの企業の方に、我々が想定していなかった使い道の可能性をご指摘いただきました。企業では長期的な展望に立っての技術開発が次第に困難となりつつある中で、引き続き大学から技術の可能性を発信していきたいと思っています。

椎体再建用骨置換型 リン酸カルシウムセメント

工学研究科 横川 善之 教授

脊椎圧迫骨折などの経皮的椎体再建術で用いられる従来の生体用セメントの問題点を克服。粘性、硬化時間を制御可能とし、幅広い医療応用が可能。



会期中、朝から夕刻まで切れ目なしに、製薬会社、素材メーカーなどの企業、大学の医師、歯科医、等々大勢の専門家がブースを訪問され、貴重な意見を頂きました。また、他大学の医師、歯科医から試料提供希望があり、ニーズを再確認することができました。企業からは素材提供や相談の申し入れがあり、実用化に向け進めていきたいと考えています。

液中プラズマ処理の 高効率化に向けた開発

工学研究科 白藤 立 教授

従来の液中プラズマ処理は高温で処理されていたが、低温大容量処理を可能にした。汚水の殺菌などに応用可能

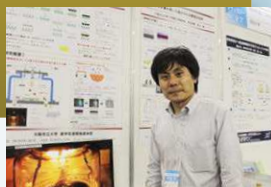


閑古鳥が鳴くかと心配していましたが、多くの方にブースを訪問いただきましたので、有り難く思いました。滅菌や水浄化の応用について聞かれることが多く、今の社会の動向が「利便性追求」から「安心安全の追求」に変わってきたことを実感しました。

原子状水素を用いた 高分子の分解除去技術

工学研究科 西山 聖 特任助教

有機溶剤を使用せず、環境に優しい洗浄技術を開発。電子機器の部品を酸化させることなく洗浄可能。



想定していた電子部品関連メーカーのほか、空調、金属部材、住宅関連などさまざまな分野からお問い合わせいただき、本研究の今後の展開を考える上で貴重な機会となりました。出展後に社社からのコンタクトがあり、研究室に来訪されて実験も行っています。今回得られた経験を生かして研究を益々発展させ、成果を還元していきたいと思っています。





RESEARCH

神経難病「筋萎縮性側索硬化症 (ALS)」の克服を目指した一歩

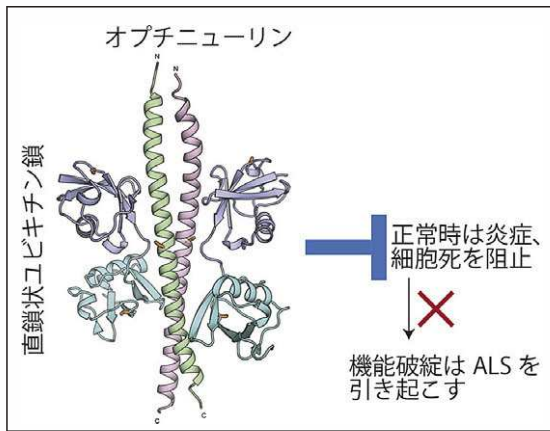


徳永文稔教授

医学研究科分子病態学^{とくなが ふみのり}の徳永文稔教授らは、東大理学部と和歌山県立医大神経内科との共同研究により、ALS発症メカニズムの一端を明らかにしました。

ALSは運動神経細胞変性のため筋萎縮を引き起こし、歩行や会話ができなくなり数年のうちに死に至る難病で有効な治療

法はありません。そこで、遺伝子変異が明らかでない家族性ALSを手がかりとして、発症機構や治療標的を見出す研究が進められています。本研究では、オプチニューリンという日本で発見されたALS病因遺伝子をモデルとして分子・細胞レベルと病理組織で解析を行いました。その結果、オプチニューリンが直鎖状ユビキチン鎖という特殊なタンパク質に結合して炎症や細胞死に関わる細胞内シグナル伝達を制御し、その機能異常がALSを引き起こすことを突き止めました。今後、直鎖状ユビキチン鎖を標的として神経炎症を抑制することでALS治療につながる可能性があります。



オプチニューリンの直鎖状ユビキチン鎖結合と生理機能

研究者 クローズアップ



医学研究科 徳永 文稔 教授

奄美大島出身の徳永教授が主宰する「分子病態学」講座は、炎症が引き起こす病気のメカニズム解明と、その治療薬を探すことが目的です。今は研究室のメンバー募集で頭がいっぱいだそうで、「まだまだ人数は少ないですが、ネタはたくさんありますので、興味のある学部生・大学院生は、ぜひ研究室に遊びに来てください!」と笑顔でメッセージをもらいました。



日本食の抗疲労効果を科学的に立証!



渡邊恭良所長

健康科学イノベーションセンター^{わたなべ}の渡邊恭良^{やすよし}所長らの研究グループは、「日本食がなぜ健康に良いのか」を科学的に検証するため『日本食によるストレス・脳機能改善効果の解明』を課題とする研究¹を行い、主観的疲労感や自律神経機能の側面から日本食の「抗疲労効果」を立証することに成功しました。

「和食」がユネスコの無形文化遺産に登録されたことを受け、研究グループでは日

本食の健康への効果を評価する試みの一つとして、抗疲労素材を多く使った日本食メニューを大阪北新地の割烹料理店「粋餐石和川」と共同開発しました。

開発した日本食の抗疲労効果に関する介入試験を行った結果、抗疲労日本食を摂取することで、疲労感の軽減効果、安静時の自律神経機能の改善効果および一部の血液中成分に改善効果が得られることが分かりました。

本成果は、抗疲労の観点から身近な食生活を改善することで、疲労倦怠感や疲労そのものを軽減させ、慢性疲労状態に陥ることを予防し、日々の仕事や学業の作業能率の改善につながることを期待されます。

※1 北海道大学が研究代表



研究成果を抗疲労レシピ本として出版

研究者 クローズアップ



健康科学 イノベーションセンター 渡邊 恭良 所長

「疲れ」とは何か?この“医学の忘れ物”に真正面から挑み、「疲労」のメカニズムを分子・神経レベルで解明した渡邊所長ですが、研究のきっかけは自身の過労でした。40代半ばで脳科学研究プロジェクトのリーダーとなり、疲労困憊の日々が1年ほど続いた後、ついに倒れてしまったそうです。当時の医学書に病気の原因である「疲労」について述べた項目がなかったことに驚き、「自分が体験したような“疲労”をなくしたい!」と、生涯のテーマを決意しました。





EDUCATION

表敬訪問の記念撮影

フランス ル・アーブル大学の交換留学生在が来訪

平成28年7月5日(火)、商学部が学部間協定を締結しているフランスのル・アーブル大学国際学部の交換留学生4名が、櫻木副学長を表敬訪問しました。櫻木副学長から留学生に向けて「今回の留学を日本語の勉強、日本文化のより深い理解に役立てていただくとともに、大阪以外にも京都、奈良、神戸などの街にも訪れ、有意義な留学生活にしてほしい」とのメッセージが送られました。

来日した留学生には、約1ヶ月にわたる日本語学習の他に、観光や近隣高校の訪問など、さまざまな日本文化に触れる留学プログラムが用意されています。

大阪市立大学商学部とル・アーブル大学国際学部は、大阪港とル・アーブル港が姉妹港関係であることをきっかけに1990年に学部間協定を締結しました。それ以来、国際交流の輪を拡げ学生の国際感覚を醸成することを目的に、毎年約1ヶ月の交換留学を続けています。



松原高校でたこ焼きづくりに挑戦



Global Villageで茶道体験

生活科学部食品栄養科学科の学生が炊き出し訓練を実施

炊き出し訓練の様子

平成28年6月6日(月)、生活科学部食品栄養科学科の4年生が総合演習の一環として、生活科学部棟の敷地内に設置されている防災(かまど)ベンチを使用し、炊き出し訓練を行いました。訓練では、保存性の高い食品と限られた火力や器具のみを使用し、国が定める栄養素などの基準を満たす食事を提供しました。

解剖生理学、食品衛生学、調理科学、給食経営管理学、公衆栄養学など3年までに学んだ科目の知識やスキルを総合的に結集する機会となりました。この防災ベ

シチュー(ライス入り)



ンチは、昨年12月にQOLの授業を履修していた学生たちが災害時に備えて制作したもので、かまどとして使用するのは今回が初めての試みでした。



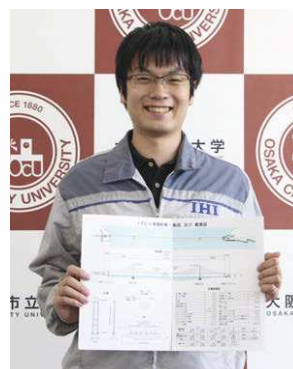
「トビタテ!」代表派遣留學生プレゼンテーションで最優秀賞を受賞!

平成28年9月3日(土)、東洋大学白山キャンパスで開催された「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」第2回留学成果報告会の代表派遣留學生プレゼンテーションにおいて、工学研究科前期博士課程2年生の儀賀大己さんが最優秀賞を受賞しました。

儀賀さんは、官民協働で取り組む海外留学支援制度「トビタテ!留学JAPAN日本代表プログラム」(2014年に開始)に応募し、トルコのイズミット湾横断橋建設プロジェクトにインターン生として約9カ月間参加しました。トルコ人の同僚に困まれ、英語によるコミュニケーションの難しさだけでなく、社会人としてのレベルの高さを求められることにも当初は苦労しましたが、「学生ではなく“エンジニア”としての自覚を持つことで、周

りにも認めてもらえ始めた。巨大な橋は、多くの人の小さな仕事が積み重なって作られているということを知り、見えない人への感謝を忘れず、お互いをリスペクトすることを学んだ」という経験を堂々と発表し、プレゼンテーションを行った計146名(大学生136名、高校生10名)の中から見事最優秀賞に輝きました。

満面の笑みで橋の概要図を見せる儀賀さん



受賞者の皆さん

賞状授与の様子





RESEARCHERS

大学教育研究センター 西垣 順子 准教授

「発達心理学」を専門とする西垣准教授の主な研究テーマは「青年の発達保障」。大学教育が青年の発達にどのように寄与するのかについて研究しながら、その発達を阻害する要因の1つである学費・奨学金問題の改善に向けた研究や運動にも関わっています。

大学教育は「人間が成長するためのもの。自分らしく生きていく上でぶつかる課題の解決にヒントを与えてくれるもの。」そうあるべきだと考え、発達教育そして大学教育の在り方を探っています。大学評価学会年報に投稿した論文『教養教育の到達目標に関する検討—「可逆操作の高度化における階層—段階理論」による青年期の発達保障の観点から—』では、教養教育は「学生が自分

自身の発達と社会・世界・自然を統合的に学ぶこと」が期待され、「価値を見つけ出したり作り出したりする体験が必要で、それには仲間や第三者との連携、協働体験が不可欠」であるとの視点を提示し、大学評価学会の田中昌人記念学会賞を受賞しています。

大学の大量化と言われる今の時代、「(経済的理由などにより)大学に入ることが当然とはされにくい人たちに大学教育が届いている意味」、それが学生自身の言葉で語られる場を作り、教育を提供・研究する側が理解し、発信していかなければならないと西垣准教授は語ります。経済状況・個々の能力に関わらず、大学で学びたい人たちが皆、大学で学べる社会を目指し、日々研究に励んでいます。



◆アナザーサイド

坐禅が好きで、昨年は毎週お寺に通っていたという西垣准教授。坐禅をすると、普段抱えていることを一旦手放すことができ、今まで気付きにくかったことに気付けるそうです。坐禅会では、色々な人と出会えるのも魅力の一つ。「[「かっこよくない人生」を体当たりで生きてきた人たちが、気楽に本音で喋っている雰囲気が好きなんです。]」そう語る西垣准教授でした。

工学研究科 機械物理系専攻 佐伯 壮一 准教授

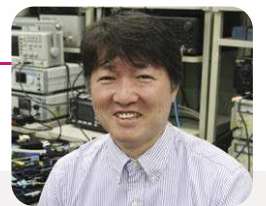
佐伯准教授の専門は「生体医療可視化学」。機械工学の技術を応用し、臨床医療をサポートすることを目指しています。動脈硬化症や悪性腫瘍(がん)を始め、皮膚疾患、関節軟骨疾患などの多くの疾患では、マイクロスケールで生体組織の硬さが変化します。しかし、その硬さの診断は医師の経験に頼らざるを得ないのが現状です。

佐伯准教授の主な研究テーマである『臨床生体医療マイクロ診断技術』では、光を使って生体表面下の内部組織の硬さ(機械特性:ひずみ、応力、粘弾性率、血流速など)をマイクロメートルレベルで断層的に見る診断技術の開発を目指しています。本研究により、生体組織の機械特性

を断層診断できる医療機器が実現すれば、動脈硬化や微小がんなどさまざまな疾患の早期発見が期待されます。

また、佐伯准教授が開発を進める光診断法は、再生医療における再生組織診断といった最先端の医療用途に加え、アンチエイジング機器などの産業応用にも展開されています。

佐伯准教授曰く、ここまで臨床医療との強い連携が求められる研究分野は日本では珍しいとのこと。本学の工学部と医学部の協力体制のもと、医工産連携ハブ技術の創出として健康寿命の延伸をテーマに、その地盤づくりに努めているそうです。



◆アナザーサイド

最近、3歳の娘さんとの散歩が唯一の楽しみになっている佐伯准教授。先日、大泉緑地に家族で出かけた時、来園者のランチバスケットを漁っている鳥を追い払うため猛ダッシュしたところ、太股筋肉を部分断裂して動けなくなってしまったそうです。整形外科医療診断機器の研究開発よりも先に、運動不足解消の方が最優先なのでは…?

医学研究科 公衆衛生学 福島 若葉 教授

医学研究科教授で最年少、かつ唯一の女性である福島教授。専門は「公衆衛生学」で、集団の観察をもとに、病気の頻度や原因を明らかにする「疫学」の理論を用い、病気の予防や早期発見に貢献するための研究をしています。

厚生労働省の厚生科学審議会(予防接種・ワクチン分科会)の委員を務める福島教授の主な研究テーマは『インフルエンザをはじめとするワクチンの有効性・安全性評価』。大阪・福岡の小児科医の先生や、全国約2万件の診療科のご協力のもと、ワクチンの有効性モニタリングや安全性の検討などを行っています。その他にも『難病の患者数把握およびリスク因子・予防因子の解明』など、さまざまな病気を対象に疫学研究を行っています。

す。これらの研究は厚生労働省研究班で実施していることから国の機関との連携が強く、その成果は行政施策に還元されるため、得られた知見が新たな治療法や予防法につながる事が期待されます。

福島教授の研究室で柱となっている「疫学」は、あらゆる病気に応用できる重要な医学研究手法ですが、「とっつきにくい」「難しそう」など、なんとなく敬遠されがちな学問。福島教授は、教室主催の講習会などを通して疫学の面白さをより多くの方に知っていただくことで、臨床医学や基礎医学と良い形で連携し、医学研究の発展に貢献したいと語ります。



◆アナザーサイド

昔エレクーンを習い、学生時代には軽音楽部でキーボードを演奏していた福島教授。出産後、音楽からは遠ざかっているそうですが、音楽ライブなどに行くことややっぱりミュージシャン魂が刺激されるとのこと。「いつかまた、バンドで演奏しようと目論んでいます!」そう熱く語る福島教授でした。

CERD×兵庫県立大学 防災教育研究センター 相互協力連携協定を締結

平成28年9月26日(月)、都市防災教育研究センター(CERD)と兵庫県立大学 防災教育研究センターは、相互の連携を強化し、地域の安全と安心に資する地域密着型の防災・減災の教育研究拠点形成を目的とした連携協定を締結しました。本協定締結により、地域密着型の防災・減災連携拠点を形成するとともに、コミュニティ防災力の促進強化を目指します。

教育・研究に関する相互協力連携協定 調印式



調印式後の記念撮影
写真左より森一彦
CERD所長、室崎益輝
兵庫県立大学 防災教育研究センター長

人工光合成研究拠点 キックオフ・セミナーを開催



キックオフ・セミナーの様子

平成28年8月17日(水)、学術情報総合センターにおいて「人工光合成研究拠点 キックオフ・セミナー」を開催しました。本研究分野の第一人者である首都大学東京 井上晴夫特任教授による記念講演などが行われ、会場に集まった約120名の参加者が見守る中、本学人工光合成研究センターが「共同利用・共同研究拠点」としての活動をスタートさせました。

医学研究科4研究センター 発足記念式を開催

平成28年7月21日(木)、医学部学舎6階の中講義室において、医学研究科4研究センター発足記念式を開催しました。4研究センターとは、今年4月に本学医学研究科内に新たに開設された「脳科学研究センター」、「感染症科学研究センター」、「難治がんトランスレーショナルリサーチセンター」、「血管科学トランスレーショナルリサーチセンター」を指します。これら4つのセンターは、基礎医学と臨床医学とを横断し研究を進め、また、本研究科内のみならず他学科や他施設とも連携を持ち、幅広く研究を行っていくものです。

写真左より、鱈淵英機教授、大畑建治教授、
荒川哲男学長、金子明教授、庄司哲雄准教授



都市研究プラザ10周年記念国際シンポジウムを開催

平成28年9月22日(木・祝)～24日(土)の3日間、都市研究プラザ10周年記念国際シンポジウム「復元力(レジリエンス)のある都市をめざしてーアジアと欧州を架橋する先端的都市論」を開催しました。本シンポジウムでは、格差と貧困・マイノリティ差別・少子高齢化など、深刻化する都市の問題に対する21世紀都市の最新の取り組みを、「レジリエンス」をキーワードに共有しました。

シンポジウムの様子



市民と高校生のための国際講演会を開催



オックスフォード大学のChristiane
Timmel教授

平成28年9月3日(土)、あべのハルカス25階において「市民と高校生のための国際講演会」を開催しました。このイベントは本学初の、高校生・市民向けの英語による大規模講演会で、「量子と情報」をテーマに世界をリードする研究機関からのゲストスピーカーとして、マサチューセッツ工科大学のSeth Lloyd教授、オックスフォード大学のChristiane Timmel教授にお越しいただきました。また、最後に本学特別客員教授のMichael Nobel博士から会場の高校生に向けてメッセージが送られました。

Highly Cited Researchers 2015に選出

平成28年6月2日(木)、杉本キャンパスにおいて理学研究科の佐藤哲也教授がトムソン・ロイター社よりHighly Cited Researcher 2015の証書を贈呈されました。このたび佐藤教授が選出されたHighly Cited Researchers 2015は、科学研究の各分野において高い影響力を持つ科学者を論文の引用動向から分析したもので、今回は全世界で約3,000人、日本国内では約80名のみが選ばれました



トムソン・ロイター社のMr.Pendleburyと握手を交わす佐藤哲也教授

法学部生がソウル市立大学を訪問



トークセッションの様子

平成28年9月23日(金)、法学部の学生8名と教員2名が、大学間協定を締結している韓国のソウル市立大学を訪問し、政経学部の学生と交流しました。セッションでは事前に勉強会で準備した質問に回答し合い、互いの国の政治や文化について学び、再認識する場となりました。終了後の懇親会ではそれぞれが交流を深め、有意義な時間となりました。

「留学生日帰り研修」を実施

平成28年9月30日(金)、毎年恒例の「留学生日帰り研修」が行われ、三重県の伊勢神宮の参拝と海獣で有名な伊勢シーパラダイスを見学しました。伊勢神宮ではバスガイドさんから伊勢神宮の由来、正式な手の清め方や参拝の仕方の説明があり、参加者全員厳かな気持ちで参拝しました。

伊勢シーパラダイスではセイウチやアシカのショーを見物するなど、みんな子どもの頃に返ったように無邪気に楽しんでいました。

なお、本研修は教育後援会の助成を受け、実施されました。



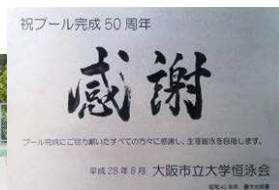
伊勢神宮にてバスガイドさんから説明を受ける留学生たち



プール完成50周年記念式典を開催

平成28年8月27日(土)、杉本キャンパスのプール完成50周年を祝い、記念式典を開催しました。式典では「感謝」と記されたプレートが恒泳会(OB会)から寄贈され、模範競泳や家族水泳大会、卒業生による記念講演が行われました。

記念式典の様子



恒泳会から寄贈されたプレート

大阪市立大学 × POIRE オリジナルサブレを販売



限定販売されたオリジナルサブレ

平成28年8月4日(木)～7日(日)に開催されたオープンキャンパス2016において、地元高級洋菓子店POIREとのコラボレーション商品であるオリジナルサブレを限定販売しました。(4日間で300箱を完売)広報室では、大学オリジナルグッズの提案を広く募集しています。アイデアをお持ちの方は、広報室までご一報ください。

第15回ホームカミングデーを開催！ 懐かしい顔と顔、大学が皆さまをお迎えします！

平成28年11月3日(木・祝)、「健康」をテーマにした第15回ホームカミングデーを開催します。今回のテーマは、4月に就任した荒川学長が掲げるスローガン「笑顔あふれる知と健康のグローバル拠点」にちなんだものとなっています。当日は、相良暁氏(S58商学部卒／小野薬品工業株式会社代表取締役社長)に「創業におけるイノベーションへの挑戦」という演題でご講演いただきます。また、高原記念館では、健康科学イノベーションセンターの協力により、「疲労測定」を体験いただけます。さらに、10時からの荒川学長によるオープニングのあい

さつに続き、各学部同窓会やクラブ・サークルOB会によるイベントが多数企画されています。16時半からは、荒川学長主催のウェルカムパーティーも開催しますので、同窓生、保護者のみなさまのご参加をお待ちしています。

また、今年のホームカミングデー開催日は、第66回银杏祭(11月3日～11月6日)の初日にあたりますので、银杏祭にもぜひ足をお運びください。(最新情報については、大阪市立大学ホームページ、各同窓会ホームページ等でご確認ください。)



原丈人氏講演会、盛況の中で終えました

「公益資本主義による成長戦略を大阪へ」

平成28年9月9日(金)18時半から開催した、世界的なベンチャーキャピタリストで内閣府本府参与を務める原丈人氏の「公益資本主義による成長戦略を大阪へ」の講演は、多くの会社経営のトップを担う経済人をはじめ、アントレプレナーを目指す方、本学の教職員や学生など約400人もの聴衆を集めました。

1部の原丈人氏による基調講演では、日本が発する社会全体の利益を考える資本主義である公益資本主義が、なぜ大事な

のかについて、(米国型の株主資本主義でも中国型の国家資本主義でもない)さまざまな角度からお話いただきました。

2部の対談では荒川哲男学長や青木豊彦学長特別顧問や塚本喜左衛門氏(大阪市立大学同窓会京滋支部長)とともに原丈人氏を囲み、本学の経営学研究科の山田仁一郎教授の進行のもと、和やかな雰囲気の中、激動する社会における大学の果たす役割に触れるなど、中身の濃い対談となりました。

原丈人氏による
基調講演



対談の様相

夢基金で大学を応援してください

市大生として世界各地への海外留学・渡航支援や、課外活動施設(部室等)の改修改善費用など、学生生活の充実と大学のプレゼンスを高めるための教育・研究活動に使われます。

1口1万円から受け付けておりますので、多くの方のご支援をお願いします！

◆ 大阪市ふるさと寄附金を活用し、2千円の負担で大学を応援いただくこともできます。◆

詳しくは [ご寄附をお考えのみなさまへ](#)

[検索](#)

問い合わせ先

大学サポーター支援室

TEL : 06-6605-3415 E-mail : supporter@ado.osaka-cu.ac.jp

❖ 大阪市立大学・大学院文学研究科 OPEN FACULTY 2016 秋のオープンキャンパス 文学部の逆襲 漂流する現代を生きのびるためのガクモン

大阪市立大学文学部・文学研究科で行われているユニークな研究を紹介するとともに、文学部のあり方に関する本音の議論を展開し、文学部がどのような学びの場を提供していくかを考えるシンポジウムを開催します。この機会に、「市大文学部」のガクモンを支える異端×オタク×教養に触れてみてください。



日時：平成28年11月12日(土) 10:00~16:30 ●参加費無料／事前申込み不要
会場：グランフロント大阪 北館タワーB 10階 ナレッジキャピタル カンファレンスルーム B01・02・07・08
主催：大阪市立大学文学部・大学院文学研究科

会場	プログラム概要
B08	10:30~12:00 ●市大文学研究科の最新研究紹介 ●「宗教的寛容と近代一多宗教帝国オスマンとアルメニア人キリスト教徒」上野 雅由樹講師(東洋史学) ●「グリム童話の謎を探る—第69話「ヨリンデとヨリンゲル」とユング=シュティリングの信仰」長谷川 健一講師(ドイツ語フランス語圏言語文化学) ●「地理学の新しい可能性—位置情報の可視化と空間分析—」木村 義成准教授(地理学)
	12:30~14:00 シンポジウムI 「『文学部は役に立たない』のか?」司会：増田 聡准教授(音楽学) パネリスト：小林 哲夫氏(教育ジャーナリスト)／オバタ カズユキ氏(ライター・編集者)／海老根 剛准教授(ドイツ文化研究)
	14:30~16:00 シンポジウムII 「生涯学習時代とリベラルアーツ」司会：小田中 章浩教授・文学研究科長(演劇学・表象文化論) パネリスト：左子 真由美氏(株)竹林館代表取締役社長)／森 久佳准教授(教育学) その他もう1名を予定しています。
B01・B02	専修・コースによる「参加型」研究紹介
B07	個別相談会場 大学院入試説明会など

お問い合わせ 大阪市立大学文学部 担当：稲次(いなじ)
TEL:06-6605-2351 FAX:06-6605-2357

※イベントの詳細については、本学文学部ホームページ <http://www.lit.osaka-cu.ac.jp/> をご覧ください。

就職支援室からのお知らせ 全学部・全学年対象

❖ 1日1社限定! 21世紀セミナーSPECIAL

11月14日(月)~25日(金) 16:30~17:30

※土・日・祝日を除く

業界研究に役立つ「21世紀セミナーSPECIAL」を開催します。各業界のリーディングカンパニーを1日1社お招きし、それぞれの業界の現状や魅力、仕事のやりがいなどについてお話し頂きます。最前線で活躍中の現役社員の皆さんからさまざまなお話を聞き、自身のキャリア形成に役立ててください。



❖ 21世紀セミナー日程決定!!

【第1ターム】12月1日(木)~20日(火) } 12:00~17:00
【第2ターム】1月10日(火)~27日(金)

※土・日・祝日を除く
※12月21日(水)・22日(木)は公務員限定の21世紀セミナーを実施します。

参加企業数は延べ300社を予定!!
1日で複数の企業ブースを回ることができるので、たくさんの企業からさまざまな業界のビジネスについて学べます。本格的な就職活動が始まる前に“働く”ことの意味を深く将来のキャリアイメージを描く機会として活用してください。



※上記イベントの詳細は決まり次第、全学ポータルサイト・CDS・就職支援室前の掲示等でお知らせしますので、随時ご確認ください。

大阪市立大学広報誌

CITY
X
UNIVERSITY Vol.22

発行：公立大学法人 大阪市立大学
企画・編集：法人運営本部 広報室
デザイン協力：desk
発行日：2016年10月

本誌に関するお問い合わせ・ご意見・ご感想は
大阪市立大学 法人運営本部 広報室
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138
e-mail: t-koho@ado.osaka-cu.ac.jp

本誌に掲載の写真および原稿の無断転用を禁じます

グローバルな都市研究・教育拠点



大阪市立大学
OSAKA CITY UNIVERSITY

杉本キャンパス

商・経・法・文・理・工・生活科学 各学部・各大学院研究科
〒558-8585 大阪市住吉区杉本3-3-138

阿倍野キャンパス

医学部・大学院医学研究科・大学院看護学研究科・医学部附属病院
〒545-8585 大阪市阿倍野区旭町1-4-3

梅田サテライト

大学院創造都市研究科・文化交流センター
〒530-0001 大阪市北区梅田1-2-2-600 大阪駅前第2ビル6階

<http://www.osaka-cu.ac.jp>